

2025年9月1日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

壊疽性膿皮症の探索的病態解析

研究の概要

【背景】

壊疽性膿皮症は、原因不明の皮膚の病気で、急速に広がる痛みの強い潰瘍が特徴です。好中球という免疫細胞が関係していると考えられていますが、詳しくは分かっていません。近年、空間解析という新しい方法で病気の組織を詳しく調べることが可能になり、細胞や炎症物質の位置や働きを画像で明らかにできるようになりました。

【目的】

本研究は壊疽性膿皮症の患者さんの皮膚生検時に保存されている皮膚組織切片を対象に、炎症細胞および炎症関連分子の詳細な空間的プロファイルを作成し、探索的解析を行うことを目的としています。

【意義】

壊疽性膿皮症の病態が明らかになり、新規治療法開発の糸口となる可能性があります。

【方法】

壊疽性膿皮症患者さんの皮膚組織組織を用いて、組織中のRNA（空間解析・RNA シーケンス・PCR）、蛋白（免疫染色）解析を行います。

対象となる患者さん

2010年1月1日～2027年6月30日までに患部の皮膚生検を施行された壊疽性膿皮症患者さん

研究に用いる試料・情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

年齢（皮膚生検時）、性別、発症日、併存疾患（皮膚生検時）、発症後の経過（皮膚症状・治療薬・併用薬：2027年11月30日まで）

●研究に用いる試料

通常診療の皮膚生検後に得られた、残余皮膚組織切片

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ

わせ先」までご連絡ください。	
外部への試料・情報の提供について	
本研究では個人情報を含まない皮膚組織切片を下記へ提供し、解析します。 提供先：大阪大学 微生物病研究所 ゲノム解析室 提供方法：宅急便 解析結果は個人情報を含まない形式で、大阪大学微生物病研究所ゲノム解析室、大阪大学 大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻ゲノム情報工学講座ならびに長崎大学原爆後障害医療研究所ゲノム機能解析部門組織修復学研究分野（原研組織）とクラウド上で共有し、詳細な分析を行います。	
試料・情報の利用開始予定日／提供開始予定日	
本研究は 2025 年 9 月 11 日より「研究に用いる試料・情報」を利用し、大阪大学 微生物病研究所ゲノム解析室へ提供する予定です。 あなたの試料・情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。 ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。 あらかじめご了承ください。	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2027 年 12 月 31 日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 皮膚科・アレルギー科 氏名：小池 雄太 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7333
試料・情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、試料・情報等の利用停止／他機関への提供停止の申し出について】 長崎大学病院 皮膚科・アレルギー科 小池雄太 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095（819）7333 FAX 095（819）7335	

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）